

■今月の特選句

2022年2月



特別に磨かれて出る初日かな

南とんぼ

年の初めともなれば磨かねばなるまい。超高温だから磨くにはそれなりの覚悟が要る。滑稽句の特徴「非科学的」感性が素晴らしい。



淑気満つ手は合掌のスクワット

久我正明

新年の敬虔な祈りをささげている。手は合掌をして淑気に満ちているが、下半身はスクワットをしている。いつものスクワットに合掌を足しただけか。



柚子風呂に囃されてゐる乳房かな

久松久子

子どもを育み、かつてその豊かさを誇った乳房も、今必要としてくれるのは柚子風呂の柚子ぐらいだ。まあ柚子なら遊んでやってもいいか。

■今月の特選句

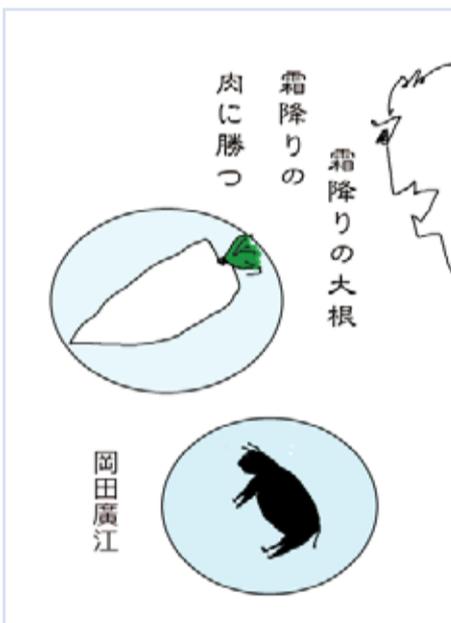
2022年2月



初鏡何してるのと問はれけり

山本 賜

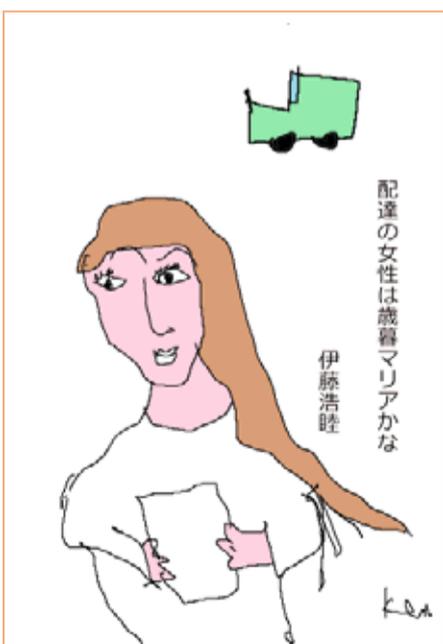
「何してるの」と問うているのは鏡である。新しい年になりましたよ。さあ、しっかり前を見て新しい気持ちで歩いていくのですよ。鏡は心の声とも。



霜降りの大根霜降りの肉に勝つ

岡田 廣江

霜降りの肉とは、最高級の神戸牛だろうか。その霜降りに大根の霜降りが勝った。肉が主役で野菜は脇役という固定観念をひっくり返したね。



配達的女性は歳暮マリアかな

伊藤 浩睦

「聖母」と「歳暮」を掛けているのはお分かりだろうが、言葉遊びは頭の柔軟性と語学力が必須。笑いが「ふふふ」程度で、ちょうどいい軽さである。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

冥途へは出せず減りゆく年賀状 ・・・あちらの方も寂しいだろね	壽命秀次
引力に負けて地球に星流る ・・・負けない星だけ空に輝き	稲沢進一
絵手紙の絵が下手すぎる年賀状 ・・・上下左右を逆に観てみよ	小笠原満喜恵
青髭を生やしてしまい鏡餅 ・・・鏡餅にも性別あるや	加藤潤子
滑稽句これから本番冬の陣 ・・・本番し損ね山笑ふ	金城正則
ゴキブリをたたくがごときカルタとり ・・・カルタとるごとゴキブリ叩き	上山美穂
混浴の楽し米寿の婆と柚子 ・・・長風呂なればともにふやけむ	田中早苗
ちゃんちゃんこ着せられ迷惑顔の犬 ・・・お詫びに食はすちゃんこ鍋など	田村米生
着ぶくれた分だけ図太くなっており ・・・気瘦せしたとき控え目となる	山内 更
どれにしようか松明の胃腸薬 ・・・飲み過ぎ注意胃腸の薬	稲葉純子
年波は鴨の如くに乗りこなす ・・・手招きをしてヘイカモンとか	竹下和宏
Googleにサンタクロースの位置尋ね ・・・人材派遣会社の事務所	月城花風
ぬき足もさし足もなく千鳥足 ・・・夜中に戻り忍び足だな	土屋泰山

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

火を焚いて猪の話やコップ酒	相原共良
おのが影追いかけて踏む冬帽子	相原共良
一抱えの柚子うめつくす冬至風呂	相原共良
去年の身をリニューアルする初湯かな	青木輝子
ほやほやのイケメンビビる水祝い	青木輝子
古妻とウイルス居座る年明くる	青木輝子
コロ脱走小六月まで現はれず	赤瀬川至安
悴むやあまつさへ目の回りたる	赤瀬川至安
枯葉降るシロは火急の用を足す	赤瀬川至安
やんごとなくも日向ぼこする紐育(ニューヨーク)	荒井 類
カプルのいちやつく電車クリスマス	荒井 類
江戸っ子や熱爛ならば蕎麦屋でしょ	荒井 類
寂び寂びの景にふはりと六花	井口夏子
何もせでひと日を終はるお正月	井口夏子
負けるな気張れ山部より賀状来る	井口夏子
アナログ賀状蝸牛速度の筆運び	池田亮二
きみはまだ青い木瓜の赤ドレス	池田亮二
除夜の鐘打つたび増ゆる縁起餅	石塚柚彩
布団から顔出して待つ初日の出	石塚柚彩
収入は年金のみの去年今年	石塚柚彩
小骨抜き背骨外して食う柳葉魚(ししゃも)	伊藤浩睦
無視される柳葉魚の牡の哀れなり	伊藤浩睦
とりあへずもとの形に紙風船	稲沢進一
風船や旅のはじまりかも知れぬ	稲沢進一
双六や調子に乗って振り出しに	稲葉純子
雑煮餅にからまれてみる入れ歯かな	稲葉純子
そぞろ道寺にも寄りてクリスマス	井野ひろみ
去年今年短気の夫の角が取れ	井野ひろみ
幼子や伊勢海老を見てザリガニと	井野ひろみ
数の子のプチパチプチの音が味	上山美穂
テラポットの鳥の眩しき初景色	上山美穂
元旦の部屋の新品カレンダー	梅野光子
冬の夜空に切れそうな三日月	梅野光子
お正月屠蘇にほんのり九十八歳	梅野光子
コーヒーの花の白さよ雪の如	遠藤真太郎
たかが夫されどは黙に松の内	遠藤真太郎
獣身を成して人心成人式	遠藤真太郎

富士山も雲の重ね着してをりぬ
 風邪薬とのんでしまった二日の夢
 初空やたてへよこへと行列は
 手づくりのお節どれにも母の味
 根が動きをり寒中の街路樹は
 串柿は仲六つまじく二個にこと
 新色に魔法のちから初鏡
 幼子は紙よりコインお年玉
 初紅をマスクに隠され成人式
 新妻や色もわからず薔薇枕
 勤め人冬は早朝早足で
 年用意年寄りだけが集まりて
 年用意慣れてるわりにノロノロと
 年用意直会(なおらい)無しが二年目に
 三ケ日狸寝入りをして過ごす
 春を待つダンテの神曲読みながら
 上半身赤し愛媛の庄大根
 ペンギンの三角関係恋猫めく
 牡蠣ぶるんオリーブオイルの中滑る
 トウシューズ履かせたくなる大根抜く
 双六の手形やワクチンパスポート
 懐の財布カラカラ初笑い
 ええいままよと三個目の餅を食ぶ
 機械油差そうか小寒の関節は
 筋トレを欠かさぬ朝の霜柱
 夢うつつ蒲団に描く宝島
 闇汁のあやしきものは対岸へ
 発射音電子レンジに爆ず银杏
 御飾りの橙の代打みかん置く
 マスクして禁酒禁煙ダイエット
 検温に一喜一憂懐手
 やることもすることもなく日向ぼこ
 猫の手も孫の手も借り年用意
 切株の年輪抱き山眠る
 冬陽背に絶対子は産めません
 令和に馴染めないドングリたち
 手の平で話そう昭和のドングリ

大林和代
 大林和代
 大林和代
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 加藤潤子
 加藤潤子
 北熊紀生
 北熊紀生
 木村 浩
 木村 浩
 木村 浩
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 小林英昭
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 白井道義
 鈴鹿洋子
 鈴鹿洋子
 鈴木和枝
 鈴木和枝

バス待ちや小銭数える懐手
 猫パンチかわす余裕や嫁が君
 福笑いピカソびっくり瓜二つ
 子が帰る時まで休戦七日かな
 コロナ禍にどんどん増える調理器具
 画面から消えたアイコン探す元旦
 北風なんぞ平気ウイツグ進歩して
 戦争の重さを識らぬ羽布団
 一喝に棚から落ちる嫁が君
 寒鴉餌を横取り抜け目なく
 冬帝や聞き分けの無く暴れをり
 コロナ禍を五黄の虎よ退治せよ
 六十歳の山茶花眺むる米寿かな
 七草に二草足らねど粥を炊く
 新年会できぬ代わりに長電話
 味よりも見た目重視のお節かな
 ケーキ屋の客みな笑顔クリスマス
 元旦にラジオ体操第二して
 初雪やハミングはあいみよんの「猫」
 マスクの世口紅買ふ気失せし妻
 去年今年鼻提灯で行く夢路
 大人にだけちらしを渡すサンタクロース
 目覚まし時計セットしてゐる聖夜の児
 焼きたての今川焼に嫌われる
 オリオンやどうなるのかねオミクロン
 賀状より手数かけたる寒見舞
 松の内七種粥の食ひ合はせ
 三寒四温コロナピークや第六波
 破れ巣に獲物を待つや冬の蜘蛛
 日向ぼこ飛行機雲の先は雨
 後期高齢最後の賀状と添え書きし
 凶抜きのくじとも知らず初笑い
 カビ知らずケースに入った鏡餅
 生ビール屠蘇にはなれず泡を吹く
 千両や国の借財兆を超え
 百歳の母のほほえみ初写真
 日本酒をワイングラスへ女正月

高田敏男
 高田敏男
 高田敏男
 高橋きのこ
 高橋きのこ
 高橋きのこ
 竹下和宏
 竹下和宏
 田中 勇
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中晴美
 田中晴美
 田中晴美
 谷本 宴
 谷本 宴
 谷本 宴
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 飛田正勝
 飛田正勝
 飛田正勝
 長井知則
 長井知則
 長井知則
 花岡直樹
 花岡直樹
 花岡直樹
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 浜田イツミ

人日の五指それぞれに役目持ち
 身ひとつを荷物に熊の浅眠り
 凍瀧や内なるこゑを隠し得ず
 角刈りの一心太助鰯捌く
 水仙に囲まれてゐる夫の墓
 ふはふはの夢を見てゐる浮寝鳥
 冬眠にあらず瞑想冬の木は
 カリフラワー漢字で書けば仮の花
 寅年はタイガードラマお正月
 お正月内弁慶とから元気
 コロナ禍で初旅プランABC
 振込めとラインで強請(ねだ)られお年玉
 聞く耳は都合次第か去年今年
 初詣寺社は三密コロナ慣れ
 初湯先づ上向くための首洗う
 団結もやがてふにゃふにゃシクラメン
 些事大事角なく収め鏡餅
 頭食みごまめ歯ざしりせぬやうに
 初夢にまた忘れ物探し物
 小寒のジッパー風に噛みついて
 恐竜の糞か卵かブロッコリー
 親指はあかざれ小指はうはの空
 誓い立てアクセルを踏む初飛行
 阿吽の呼吸ちいさい足袋の獅子舞の
 兄弟のヒソヒソお年玉の朝
 湯豆腐や別れ話のより戻る
 青春を又味はふや狂い花
 初夢やコロナを食べる宇宙人
 冬の川夢みる幾千万の飛沫
 春の海鯛はただいまお留守らし
 次世代へ続く響きや除夜の鐘
 杵搗きの味をいばるや鏡餅
 この家に大きすぎたか注連飾
 きまり悪さう松過ぎの年賀状
 嘘つきの言い訳さえも息白し
 忙しいふりをしている年の暮
 初東風の先にはベビーカステラ屋

東 麗子
 東 麗子
 東 麗子
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 峰崎成規
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 向田将央
 向田将央
 向田将央
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫
 森岡香代子
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青

ニュートンの秘策もて攻め雪合戦

去年今年歩きスマホの金次郎

軒先の氷柱や鯉鱒の眼

人間を生きております厄払

降る雪が諭吉であれば生きられる

雪堀りのすっからかんに売り切れる

精米所おこぼれ狙う冬雀

初日記ラデツキー行進曲聴きつ書く

モネの庭星の灯りの聖夜かな

遅れたる冬コスモスと野良時計

コロナ消え戻る人出の師走かな

年玉之相場談合親身内

子規の句の日めくり暦初めくり

末吉と結ひて留め置く初詣

ミニ門松写真の母がおめでとう

雑煮餅のびるのびる寿命ものびる

ドキドキとケセラセラの初みくじ

葛湯搔くほっと落ち着く十一時

聳え立つガンダム冬の港町

日記買ふさらのページに何埋まる

煩悩を除去して気楽歳新た

初鏡マスク付けたり外したり

添え書きのくせ字が嬉し年賀状

控えめや花にたとえて冬桜

湯けむりの景に北風乱さるる

この辺でもういいでしょう煤払

開け閉ての忙しきことよ松の明け

こもり居も苦行のひとつ春を待つ

打ちぬきの水を光らせお菜洗ひ

「てぶくろ」の絵本を囲む息白し

初鏡涙袋に紅をさし

粕汁に酔ふ程妻は柔くなし

あの人の言葉のブーケ明の春

神の留守へそくりで買ふ宝くじ

柳 紅生

柳 紅生

柳 紅生

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山内 更

山内 更

山岡純子

山岡純子

山岡純子

山下正純

山下正純

山下正純

山田真佐子

山田真佐子

山田真佐子

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子